

令和3年11月19日

報道機関 各位

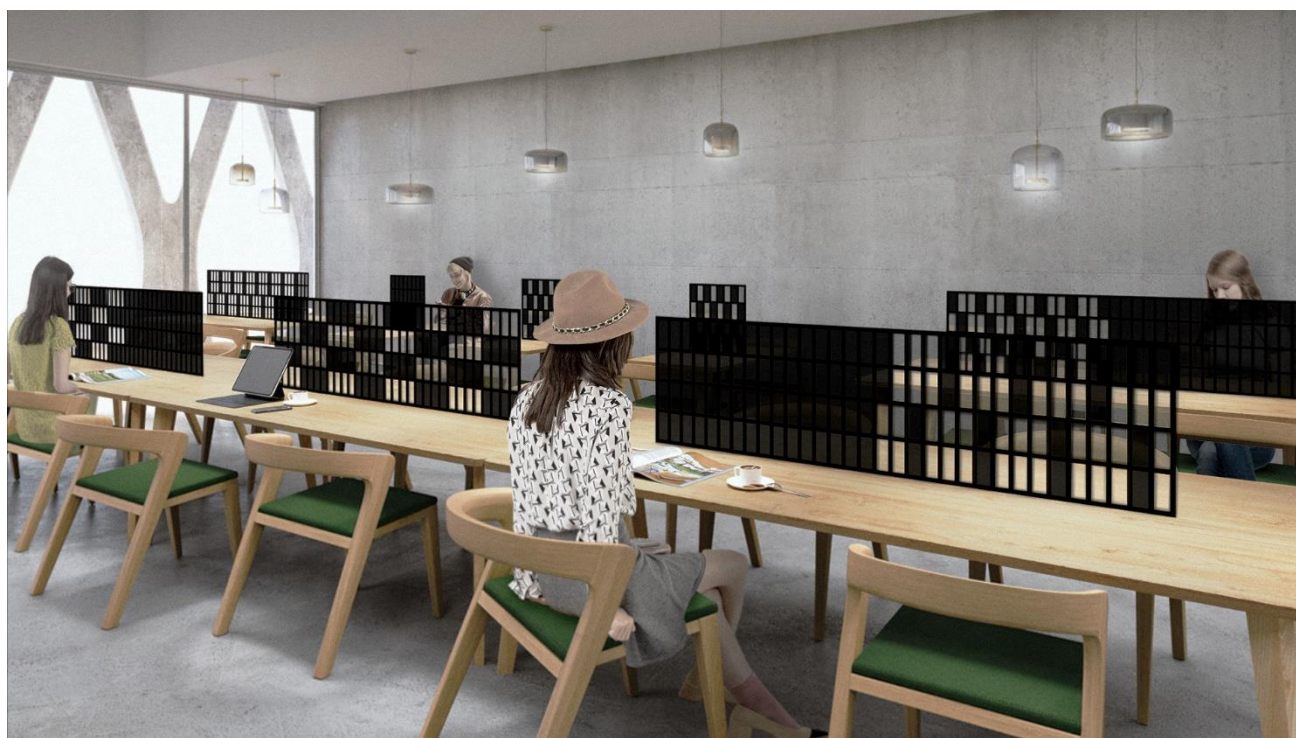
国立大学法人 電気通信大学

感染症対策をしながら空間演出が可能なデジタルパーテーション ～電気通信大学とイメージソースが共同開発～

国立大学法人 電気通信大学 大学院情報理工学研究科の石垣 陽 特任准教授は、株式会社イメージソース(本社:東京都渋谷区、代表取締役社長:岡勇基、以下イメージソース)と、感染症対策をしながらも空間演出可能なデジタルパーテーションを共同開発いたしました。このパーテーションは、適切な幅と高さによって飛沫感染を防ぎつつ、「遮光」と「透過」の二つのふるまいによって、背後の対象物や景観を見せたり隠したりしながら、空間に新たな意味や価値を提供するものです。

※イメージソースからのプレスリリース:

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000020.000041322.html>



【概要】

ウィズコロナ時代、長期的な感染症対策が必要とされるなか、石垣陽特任准教授とイメージソースは、感染症対策をしながらも明るく楽しい世の中にデジタル表現で導くことはできないかと考え、全く新しい発想のパーティションを開発するに至りました。液晶モジュールパネル「KAXEL」(参考リンク1)の技術プラットフォームを元に、自由な空間レイアウトに対応し、演出内容もカスタマイズできるよう一新しました。

例えばカフェやラウンジにおいて、ひとりで席を利用する際はパーティションが黒く変化しパーソナルスペースとして視線を遮断でき、複数人で利用するときには透明になり、さらに席が使用されていない場合はデジタルアニメーションの演出が可能です。このように、感染症対策に配慮しながら、新しい時代のコミュニケーションに合ったインテリアとして、人や設置場所に応じた空間づくりが可能となります。

【背景】

電気通信大学ではこれまで、肉眼からは映像を見ることができないデジタルサイネージやプロジェクション技術を開発し、お台場ヴィーナスフォート「Venus of TOKYO」に採用されるなど新しい舞台演出技術を開拓してきました(参考リンク2)。また感染症対策においては、過剰なパーティションによる密閉が新型コロナのクラスターを誘発する可能性を逸早く指摘し、適切なパーティションのあり方を提唱してきました(参考リンク3)。

<イメージソースについて>

イメージソースは社会が大きく変化するなかで“Prototyping the Future”を掲げ、常に最適なユーザー体験を追究してきたコミュニケーションカンパニーです。R&D 機能も備え、デジタル領域での新たな表現を自ら開発し発信するクリエイティブチームでもあります。あらゆる表現がデジタル／フィジカル、アート／サイエンスの境界を超えて更新され続けるなか、新たなテクノロジーを創業以来培ってきたクラフトマンシップでブランド価値を高めるクリエイティブへと昇華させ、社会のあらゆる場面に実装しています。

URL : <https://www.imgsrc.co.jp>

<参考リンク>

1 : About KAXEL - イメージソース LAB

<https://www.imgsrc.co.jp/lab/kaxel/>

2 : 【ニュースリリース】電通大がお台場ヴィーナスフォートにて「見えない液晶」の技術を提供 ～日本初の常設イマーシブシアター「ヴィーナスオブトーキョー(Venus of TOKYO)」にて～

https://www.uec.ac.jp/news/announcement/2021/20210630_3511.html

3 : 【ニュースリリース】アクリルパネルやビニールシートがマイクロ飛沫感染の一因に ～クラスター発生地点での換気実験と熱流体シミュレーションから分析～

https://www.uec.ac.jp/news/announcement/2021/20210531_3411.html

【本リリースに関するお問い合わせ先】

■製品取材のお申込み先

株式会社イメージソース（担当：中丸）

MAIL: info@imgsrc.co.jp

■使用技術についての問い合わせ先

国立大学法人 電気通信大学 特任准教授 石垣 陽

MAIL: ishigaki@uec.ac.jp

■電気通信大学に関すること

国立大学法人 電気通信大学 総務企画課広報係

TEL:042-443-5019 FAX:042-443-5887

MAIL: kouhou-k@office.uec.ac.jp